

友だち100人できるかなプロジェクト

横浜市立大口台小学校の取り組み



テーマ2：教科の学習に生かそう！

1, テーマにかかわって

= 社会科「水はどこから」の学習を通して =

蛇口をひねるといつでも「水」が出てくることは知っていても、その水がどのようにして自分達のところへ届くかは知らなかった子どもたちである。ダム近くの学校との交流によって、より「水」に興味をもち、「知りたい！調べたい！」という意欲が強くなることを期待したいと考えた。

2, 実際に起こったこと

(1) テレビ会議



ラフな形式でのテレビ会議をしているうちに、互いの地域に興味を持ち始めた。

C 1 「宮が瀬小学校が全校で7人しかいないのはどうしてですか？」

C 2 「ダムを作るので、みんな引っ越ししたからです。」

T 「ダムを作ったので今は宮が瀬の学区に住む人が少なくなってしまったんだねえ。」

C 3 「かわいそう！どうしてダムなんて作ったんだろう。」

まだ、自分達が飲んでいる水が宮が瀬ダムから来ているなどということを知らない頃の会話であった。

社会科の学習で、宮が瀬ダムからも水が来ていることを知った子どもたちは、「ダムについてもっと知りたい。」「宮が瀬ダムから水はどうやって送られてくるんだろう。」という課題をもった。

(2) 夏休みに宮が瀬小学校訪問&宮が瀬ダム見学

課題解決の資料を集めておくことが、夏休みの課題の1つとなった。そこで、有志の子どもたちと一緒に、宮が瀬ダムを見学しながら宮が瀬小学校を訪問することにした。



小林校長先生もおで迎えをしてくださり一同感激！ホールに案内していただいとお互いに自己紹介をしあった。まだ、なんだかみんな緊張ぎみ。

宮が瀬小学校からは、山本さんと小林さんが参加して、学校の中をいろいろ案内してくださるうちに、みんなうちとけていった。

横浜市の飲み水となっている宮が瀬湖
この湖の下には、8つの集落が沈んでいるという。色は緑色で、昨年の水不足のころと比べると、水量がずいぶん多かった。



郷土資料館に展示されている宮が瀬湖周辺の写真。白くなっているところが現在の宮が瀬湖。

こうして、ダムを実際に見てきた子どもたちから、2学期早々報告があり「ダムってすごく大きいよ！水を溜めておくだけじゃあないんだって。」「あの緑色の水がそのまま蛇口から出てきたら大変。どうやって水をきれいにするのか、仕組みを調べてきた。」というように、学習に対する意欲が増している姿が見られた。

今後は、県の学習になっていくので、ダム建築によって変わってきた宮が瀬についてや県の中心である横浜についての情報を交換しながら、自分達の地域を見直す学習ができたらと考えている。